

# 蔵出しお宝ニュース

— 第 39 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で永らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

## 三原城の絵図2点を表装



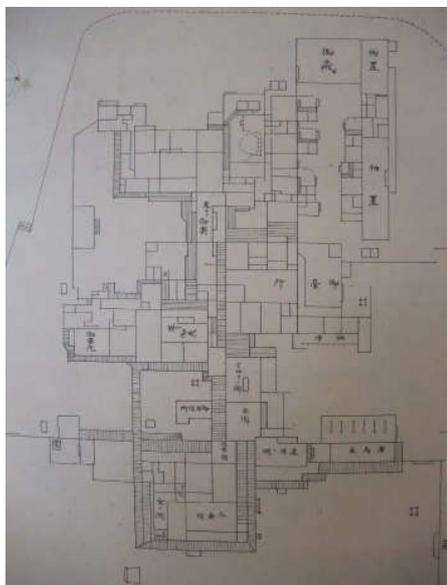
このたび、資料館で保存している絵図「三原城郭内之図」「備後三原城本丸内建物」を表装しました。「三原城郭内之図」は、本紙左上に書かれた本図説明によると、文政12(1829)年に三原城二之丸北の<sup>やぐら</sup>櫓下の石垣3箇所が<sup>ほら</sup>孕み出した際、修繕をする為に城郭の図を描いて差し出したものを基に製作した図面です。さらに、屋敷には明治維新当時の居住者の名前が記されています。

「備後三原城本丸内建物」は、三原城の本丸内にあった建物の間取図で、金ノ間・大広間などの名称が記されています。

本紙を長らく丸めた状態で納めていましたが、今後の保存と資料の活用をしていく上で、軸装するのが妥当なため、表具師に依頼しました。

いずれも明治時代以降に描かれた絵図ですが、3年後に三原築城450年祭を迎えるに当たり、三原城の変遷を示す貴重な資料です。

この絵図2点は、秋に開催される三原浮城まつりに他の資料と合わせて特別公開したいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



(左上)「三原城郭内之図」

(左下)「備後三原城本丸内建物」(部分)

## 三原の古写真と昭和雑貨で昔を懐かしむ来館者 多数



古写真を見学しておられる様子

平成26年6月1日(日)から6月30日(月)まで、資料館1階にて「なつかしの三原古写真と昭和雑貨展」を開催しておりますが、ご来館いただいた方々が、在りし日の三原の風景を写した写真と雑貨を前に、当時の生活を懐かしがっておられます。

三原市西町在住の岡村徳男氏が撮影した戦後三原の古写真パネルを見られた方で、当時をご存知の方は「三原駅がまだ高架ではない時に、通勤で毎日駅を利用していたことを思い出す。」「宮浦が今のように家が立ち並んでいなかった。」「俗にチンチンゴマと呼んでいたコマを回して遊んでいた。」とお話しされ、当時をご存知でない方は「三原にも塩田があったのですか。」「この商店街は今の、どの辺りですか。」と質問しておられました。

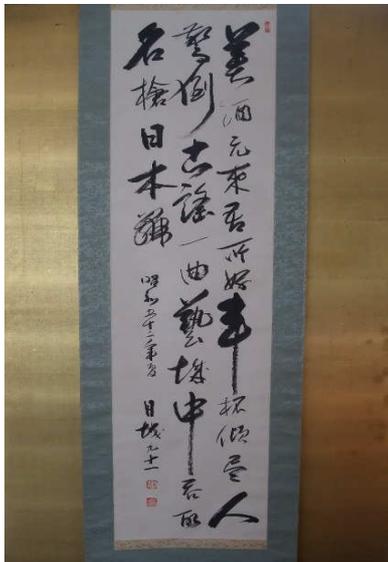
一番うれしかったのは「ここに写っているのは私です。」と教えていただいたことでした。

また、雑貨を見学された方は「黒のダイヤル式電話は今でも家で使っています。」「このダイヤル式電話はどのようにして使うのですか。」「めんこの俳優のかすり写真が懐かしい。」「私の祖父がこのようなかすりの着物を着ていた。」「今思えばどれも我が家で使っていた。取っておけばよかった。」「昔の冷蔵庫は氷で冷やしていたのですね。」などのコメントを寄せられました。

会期があと数日ありますので、ぜひご見学ください。幸いで。

続いて夏は「第3回 私たちのやっさ踊り展」を計画しています。こちらは例年同様、市民ギャラリーを利用した企画展です。詳細は次号でご紹介させていただきます。

おき どこ しゅん じゅう  
置 床 春 秋



掛物 松口 月城 筆

七言絶句 名槍日本号

松口月城(1887~1981)は昭和期に活躍した漢詩家です。

「黒田節」を漢詩で表したものです。月城は詩吟の発表会などで三原に度々訪れ、三原酒を飲んでいました。

花入 行器

花 季のもの

発行 平成26(2014)年 6月27日

〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。